

会津短大 佐川 澄子

1. 和服地の縫製にとっては並縫がよく出来るかどうか重要な問題であるが、大学以前においてはその修練の機会が少ないため、よく出来ないのが現実の姿である。今回指の長さからぬい針の長さを求め、あわせて簡易ななみ縫の評価法を設定し、実際のぬい方により、縫製能率に差のあることを明らかにしたので報告する。

2. 拇指と食指の長さを計り、指ぬき上にぬい針が垂直に立つように拇指と食指で針先を持つ。この時針先は拇指先で0.8cm 食指先で0.5cm 出ていることが必要である。この条件を充たすために、もめん用ぬい針4種を用意し、各自に選択させて、所持針を一定とした。

なみ縫の評価にはもめん裏地65cmのものを中央60cm間を印しておき、縁から1cm 縫しろのなみ縫縫目が長さ、目数、正確率評価に役立つようにした。次に拇指長の長い者A、短い者Bを各3名抽出し、適した針イ、適さぬ針ロ、を使用して、交互に5分間ずつ3回なみ縫をし、その縫製能率をたしかめた。

3. 長さではAがイ使用で114cm、Bがイ使用で127cmであるが、A B共ロ使用で10%低下を来たした。目数ではA・B共イ使用で160 目前後だったものがロ使用では7~9%の低下を見た。正確率ではA・B共85%のものがロ使用で、Aの場合17%の低下を見た。Bでは低下しなかった。総じて拇指長67%前後の針が縫製能率をあげるためには効果あることが明らかとなった。